

第6学年 国語科指導案

1 単元名 「考える」とは何か、座談会で考えを広げよう

2 単元の目標

○文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解することができる。

(知識及び技能 (1) カ 文や文章)

○文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。

(思考力、判断力、表現力等 C (1) オ 考えの形成)

○文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。

(思考力、判断力、表現力等 C (1) カ 考えの共有)

○筆者の主張や事例、論の進め方や表現の工夫など3つの文章の特徴を理解することに粘り強く取り組み、学習の見通しをもって自分の考えをまとめ、伝え合いに取り組もうとする。

(学びに向かう力、人間性等)

3 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。 ((1) カ)	①「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。 (C (1) オ) ②「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。 (C (1) カ)	①筆者の主張や事例、論の進め方や表現の工夫など3つの文章の特徴を理解することに粘り強く取り組み、学習の見通しをもって自分の考えをまとめ、伝え合いに取り組もうとしている。

4 単元について

(1) 本単元で扱う言語活動について

本単元は、3人の筆者によって書かれた説明的文章を比べて読む単元である。本単元のゴールとして、「考える」とは何か、座談会で考えを広げよう」を位置付けた。

「考える」とは「考える」という抽象的なテーマについて、作家、ロボット学者、国際連合事務次長という異なる立場の筆者が考えを述べている説明的文章である。児童は、普段から「考えて行動しよう」など、日常的に「考える」という言葉を使っている。しかし、実際に「考える」とはどういうことかを説明するとなると、難しい問いである。「考える」とはどういうことか、3人の筆者は、自らの経験を基に具体例を示しながら考えを述べている。それぞれの分野で活躍している3人の主張やそれを裏付ける体験談を読むことで、難しいテーマに対し新たな視点を得ることができると考えた。文章を読むことを通して、自分なりの答えを見つけたいという気持ちが高められるようにしたい。また、正解のない問いであること、3つの文章を読み比べる単元であるため、多様な意見が出

てくると考えられる。多様性があるからこそ、友達の考えを知りたいという気持ちが高まり、座談会での交流に意欲的に取り組むのに有効な教材ではないかと考えた。

第8時では、「考える」とは何か、座談会で考えを広げよう」という言語活動を行う。3つの文章を読んで考えをまとめ、「考えるとは何か」というテーマで座談会を行う。今回の学習は、グループで一つの答えを出すものではない。話し合いの型を決めずに自由に意見を言い合ったり、質問したりすることで、自分の考えを広げることが可能になると考え、座談会という言語活動を選択した。

座談会に向けて自分の考えをまとめるために、第2～5時では、それぞれの文章の主張を把握し、論の展開の仕方や構成の工夫、挙げられている事例、表現の工夫などの特徴を捉え、文章の構造と内容を理解する。さらに、本時と第7時では、共感・納得する点や疑問点を整理したり、自分の知識や経験と重ねて読んだりして、「考える」ことに対する自分の考えをまとめていく。座談会に向けて自分の考えを形成するために、これまでの説明的文章で学んだことを生かして文章を読み、座談会を通してその考えを広げられるようにしたい。

(2) 本単元で身に付けさせたい力

(身につけさせたい力について)

本単元は、学習指導要領「C 読むこと」の指導事項である「オ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること」と、「カ 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。」の資質・能力の育成を目指す。また、単元内自由進度学習を通して主体的に学び続ける児童の育成を目指す。

児童はこれまでに、「時計の時間と心の時間」では、主張と事例の関係をとらえて読み、自分の考えをまとめて伝え合いをする学習を行ってきた。また、『『鳥獣戯画』を読む』の学習では、筆者の工夫をとらえて読む学習を行った。本単元では、それぞれの文章での考えや述べ方について把握し、自分の知識や経験と重ねながら考えをまとめる力を身に付けさせたい。また、様々な人や、筆者との対話を通して、その人の思いや考えに触れ、自分の考えを広げる力を身に付けさせたい。

(手立てについて)

①座談会における相手の自己決定

「考える」をテーマとした座談会では、「考える」ということに関して友達と共有することを通して、自分の考えを広げること为目标としている。座談会を行うにあたり、教師に決められたグループでは、考えを聞きたい友達と話し合うことができない児童がいる可能性がある。また、本学級の児童の様子を見ていると、自分と似たような考えをもった友達と話したい児童、自分と全く異なる考えをもった友達と話したいという児童がいることがわかった。そこで、座談会において話したい「相手」を自己決定できるようにすることで、主体的に活動に取り組めるのではないかと考えた。

座談会を行うにあたり、3人グループを自由に決めてよいことにする。そのために、本学級では、誰とでも話し合える環境づくりを継続的に行ってきた。例えば、テーマについて友達と考えを伝え合う「聴き合い活動」を行うことで、自分の考えを友達に伝えることを習慣化してきた。また、友達の良いところを伝え合う「スペシャルキラリ」を行い、クラスの友達がどのような人物なのかをお互いに理解できるようにしてきた。

これらの継続的な活動を踏まえ、主体的に児童が座談会で考えを述べ合えることを目指し、児童にグループ編成を委ねることとした。「自分の考えを広げるための座談会」という意識をもち、そのうえで自分が誰と話をするのかを決められるようにしたい。

②ICT の活用

友達がどのように学習を進めているのかを共有できるようにするため、学習の記録（ノートの写真、タブレット端末のスクリーンショット）を毎時間、SKYMENU に提出する。自分のタブレット端末で友達の学習の様子を見られるようにしておくことで、筆者の主張は何か、表現の工夫はどのようなものがあるか、友達はどのように自分の考えをまとめているかなどを参考にすることができると考えた。文章の読み方を友達と比較し、今の自分の読み方が本当に最適なのかを考えられるようにしたい。

また、座談会をするうえで、プレゼンテーションソフトやドキュメントを使ってもよいことにした。そのため、学習カードをギガタブ上でも編集できるようにする。書くことに苦手意識をもっている児童でも、自分の考えをわかりやすく相手に伝えることができるよう、活用していきたい。

（3）（1）（2）の基盤となる言語環境や継続的な取組

①自立した学習者を育成するための単元内自由進度学習

主体的・対話的で深い学びを実現し、生きて働く力の育成を目指すなかで、自ら見通しをもち、自己調整しながら、粘り強く学習に取り組む資質・能力の育成が求められている。自立した学習者としての資質・能力を育成することを目指し、本学級では昨年度から単元内自由進度学習を行っている。千葉市脅威センター「子供が自ら学ぶ！単元内自由進度学習」では、

単元内自由進度学習は、導入とまとめ以外の多くの時間を子どもが自分の力で進める学習です。

「子供が自分で計画を立て、自分のペースで学習する」、つまり、振り返りをもとに自己調整しながら進められる特徴があります。¹

と述べられている。単元内自由進度学習は大きく分けると、「ガイダンス」「自由進度学習」「まとめ」の3つの構成が基本となる。初めに、学級（学年）全体でガイダンス、単元の導入をする。次に、「学習の手引き」を参考に、子供各自が「学習計画表」を使って計画を立てる。そして、学習計画に基づいて子供が各自学習を進める。毎時間、振り返りを行い、自分の学習の進め方を自覚するとともに、学習計画を見直す。また、学習を進めるうえで、「方法」「相手」「時間」を子どもに委ねる。そのため、学習カードを使う児童、ノートにまとめる児童、ギガタブでまとめる児童に分かれる。また、個人で学習する児童、友達と学習する児童に分かれて行う。最後のまとめでは、振り返りや学習成果の

¹ 千葉市教育センター課題研究 授業改善に関する研究 自立した学習者の育成を目指す授業改善の在り方―見通し・振り返り・自己調整を大切に―、2024, p2

発表や共有、自由進度学習でつまずきが多かった内容などを学級全体で確認する。²³

文章の読み方や、文章を読んで考えたことには多様性が見られる。方法や考えは一つではないからこそ、児童は友達と共有する意味を見出すことができると考え、「読むこと」の領域で自由進度学習を行ってきた。自分ひとりで学習を進める児童もいれば、友達と一緒に学習する児童もいるのだが、一人で進めている児童は、自分の学習の進め方や考えで満足してしまう可能性がある。そのため、友達と共有できるよう、教師が授業の冒頭に児童のノートを紹介したり、友達と共有して成果を感じた児童のふりかえりを紹介したりする。また、友達と学習を進める児童に対しては、「なぜ友達とするのか」「なぜその友達なのか」を明確にし、目的をもって学習できるようにする。

単元内自由進度学習は、計画をもとに自分のペースで進めるため、児童からは「自分のやってみたい学習ができるから楽しい」「早く終わっても友達と交流すると新しくやってみたいことが見つかる」などという感想が見られ、自分で学習を進めることの楽しさを味わうことができていると感じる。一方で、計画を立てることに難しさを感じている児童や、自分の学習の進め方に自信がもてず立ち止まってしまう児童もいる。そのため、学習計画の例を用意し、真似をしてもよいとする。どの児童も学習に必要な情報や援助を自分で求め、「できた」「わかった」を味わえるよう、児童の選択を大切にしながら、学習の支援をしていきたい。

②自己の学習の様子を自覚し、次の学習へつなげるための振り返り

児童が自分の学びを客観的に認知し、次の学習へとつなげるために、毎時間振り返りを行っている。「できたこと」「なぜできたのか」「わかったこと」「どうしたらわかったのか」「できなかったこと」「なぜできなかったのか」「わからなかったこと」「なにがわからなかったのか」「次どうしたいのか」を書くようにしている。また、できなかったり、わからなかったりしたことは失敗ではなく、原因を探り次につなげることができればよい、ということを継続して伝えている。振り返りの時間を習慣化してきたことで、自分の学習を分析し、次回どうするかを自己決定できるような環境づくりをしている。本単元でも、毎時間の振り返りを行い、自己調整しながら粘り強く文章を読んだり、自分の考えをまとめたりすることができるようにしたい。

③誰とでも話せる環境づくり

座談会をするにあたり、自分の考えを相手に安心して話せる環境が必要だと考える。そのため、学習の最初の時間を使って、聴き合い活動を行ってきた。3人グループを作り、児童にとって身近なテーマで自分の意見を述べたり、友達の意見を聴き合ったりする。その際に笑顔で聞くこと、否定したり話を遮ったりせず最後まで聞くこと、相槌を打つことなどを意識して活動を行っている。互いの違いを認め合う雰囲気をつくることで、安心感をもつことができ、主体的に意見が言えるようになると考えた。

また、児童が座談会のグループを決める際には、クラスの友達がどのような人物なのかを知っていることが重要であると考え。お互いのことを知るために、「スペシャルキ拉里」を行ってきた。学

² 千葉市教育センター前掲書、p 4

³ 吉野竜一「こどもにゆだねる国語授業」明治図書、2023、p 47

級全員の良いところを一人ずつ出し合い、「〇〇さんのキラリ」というリストを全員分作成する。友達の良さや性格を知っておくことが、グループ作りでの判断材料になるとともに、安心して話す環境づくりの一助になると考える。「じっくり考えたいから、いつも自分の考えを持っている A さんと話そう。」「難しいテーマだから、話すのが得意な B さんと話してみよう。」というように、いろいろな友達と学べるようにしたい。これらの活動を生かしながら、「考える」とはどういうことか、他者との対話を通して児童が考えを広げられるように支援していく。

5 単元計画の例（全9時間）

次	時	学習活動	指導や支援の手立て	評価基準 評価方法
第一次	1 一 斉	○「考える」とはどういうことか、自分の考えをもち、学級で共有する。 ○単元のめあてを確認し、めあてを達成するために必要なことを確認する。 ○本単元で身に付けたい力を各自で設定し、学習計画をたてる。	○普段の生活を想起し、何をしたら「考える」ということになるのか、児童の意見を共有する。 ○単元のめあてを達成するには、3つの文章を読んで、それぞれの筆者の主張を読み取り、 ①自分が納得したものを取り入れる ②3つの文章を比較して、よりよいものを選ぶ ③3つの筆者の考えを参考にして、自分の考えをつくる の3パターンがあることを確認する。 ○考えをまとめるには筆者の主張をとらえることが必要。筆者の主張をとらえるには、表現や事例から納得できるかを検討したり、3つの文章の表現を比較したりすることなどが必要になる。既習事項から、どんな読み方が今回必要になるのかを学級で共有し、見通しをもてるようにする。	

第二次	2	○三つの文章の構成を考え、内容の大体を捉える。 ・それぞれの文章で筆者が最も伝えたいことを見つける。 ・それぞれの筆者が「考える」をどのようにとらえているのかを短い文章でまとめる。 ・毎時間、振り返りを行う。	○三つの文章の大まかな内容を整理できるようにする。 ○それぞれの筆者の主張を見つけることができるか確認する。を見つけるのが難しい児童には個別に支援をする。	【知・技①】 <u>ノート・ギガタブ</u> ・筆者の主張を見つけているか確認。
	3 4 5	○筆者は読者に自分の考えを伝えるためにどのように文章を書いているのか、特徴を整理する。 ・論の展開のしかたや構成の工夫がどうなっているのかまとめ、共通点や異なる点を見つける。 ・それぞれの文章ではどのような事例があげられているのかをまとめ、共通点や異なる点を見つける。 ・表現の工夫を見つけて整理し、共通点や異なる点を見つける。	○三つの文章全てについて考えることが負担に感じる児童には、文章を一つに絞ったり、観点を絞ったりしてもよいことを伝える。 ○机間指導を行い、児童の学習の様子を把握するとともに必要に応じて支援を行う。 ○毎時間、学習計画表とその日のノートやギガタブでまとめたものを提出させ、個別にコメントをして支援を行う。	【知・技①】 <u>ノート・ギガタブ</u> ・文章の構成や展開、特徴についてとらえているか確認。 【主①】 <u>ノート・学習計画表・ギガタブ</u> ・見通しをもって粘り強く文章を読んでいるか確認。
第三次	6 7	○「考える」ということについてどう思うのかをまとめる。	○①三つの文章のうち一番自分の考えに近いものを選んで書く②複数の文章を関連させて書く③3人の筆者の考えを踏まえて新しい考えを書くの3パターンがあることを伝える。 ○机間指導を行い、児童の学習の様子を把握するとともに必要に応じて支援を行う。	【思・判・表①】 <u>ノート・学習カード・ギガタブ</u> ・文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめているか確認。

			○必ずしも作文のような形である必要はないことを伝える。 ①文章のみ②プレゼンテーション③文章と図（イラスト）など。	
8	○「考える」とは、をテーマとした座談会を行う。 ・3人グループを組み、テーマに沿って座談会をすることを2回繰り返す。 ・座談会を通して、自分の考えがどうなったのかをまとめる。	○感想の例を提示し、自分の考えとの共通点、異なる点、質問などを考えながら聞くよう伝え、質問や感想を伝え合うようにする。 ○座談会の様子を動画で記録する。	【思・判・表②】 <u>ノート・ギガタブ、動画</u> ・文章を読んでまとめた考えを伝え合い、自分の考えを広げているか確認。	
9	○単元全体のふりかえりをする。	○①論の展開や表現が特徴的だと思ったのは、どの文章のどんなところか。 ②友達と伝え合うことを通して、考えはどのように変化したのか。 ③複数の文章を読んで考えを伝え合うことには、どんなよさがあるか。 ④学習の進め方はどうだったのか。 以上の4つの視点から振り返るようにする。	【主①】 <u>ノート・学習計画表・ギガタブ</u> ・見通しをもって学習に取り組んでいるか確認。	

7 本時の学習

(1) 本時の目標

文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。

(思考力, 判断力, 表現力等 C (1) オ 考えの形成)

本時の展開 (6 / 9)

時間	学習活動と内容	指導や支援の手立て (◇は評価)
2分	1 単元のめあてを再確認し、本時の学習内容を確認する。	
5分	2 考えをまとめるときのポイントを確認する。 ・「考える」とはどういうことなのかについて自分の考えをまとめる。 ・①3つの文章のうち、一番自分の考えに近いものを選んで書く。 ②複数の文章を関連させて書く。 ③3人の筆者の考えを踏まえて新しい考えを書く。 の3パターンがあることを確認する。 ・まとめ方は、作文に限らない。 ①文章 (メモでも可) ②図 (ウェビングマップなど) ③プレゼンテーション など。	○まとめ方は手書きでもギガタブでもよいことを伝える。
33分	3 自分の考えを整理したり、まとめたりする。 例①特に印象に残ったことと、その理由をまとめる。 《鴻上さんの文章の例》 ・「考えることとなやむことを区別する」という考え方に納得した。なぜなら、自分自身も、今まで「考える」のではなく、「なやむ」に時間を使ってきたのだと気付いたからだ。 《石黒さんの文章の例》 ・「考える」ということがどういうことか、解明されていないということが印象に残った。なぜなら、今まで、考えるということがそれほど難しいことだと知らなかったし、ロボットには真似できないことだと知ったからだ。	○机間指導をし、児童一人ひとりが何をしているのかを把握できるようにする。 ○学習に困り感をもっている児童を見つけたり、相談を受けたりしたら、個別の支援を行う。 ◇文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめている。 (ノート・ギガタブ・観察)

5 分	《中満さんの文章の例》 ・「よりよい世界を築くには、人間が、弱い立場の人に心を寄せること、そして、何が大切なのか、何が正しいのか、どういう未来にしたいのかを考え、行動することが重要なのだ。」という言葉に納得した。なぜなら、紛争が行われている場所で中満さんが実感したということが強く伝わってきたからだ。 例②自分の知識や経験と比べて気づいたことをまとめる。 ・鴻上さんの文章を読んで、私も、友達とけんかをしたときに、「まだ怒っているのかな」「心配だな」と感じた。これは「なやむ」のほうだと気づいた。 ・中満さんの文章を読んで、マザーテレサを思い出した。彼女も、中満さんの言うように、弱い立場の人に寄り添い、何が正しいか考え、行動に移した人物だと思う。 例③自分の考えとの共通点や異なる点をまとめる。 ・私は、「考える」とは、どうすべきか判断することだと思う。中満さんの文章の、「何が大切なのか、何が正しいかを考える」というところと共通している。 ・私は、「考える」とは、頭の中でいろいろと想像することだと思っていた。しかし、石黒さんの文章を読んで、アイディアを出したり、何かを理解したりすることなど、「考える」ことの仕組みはまだ解明されていないと知った。 4 ふりかえりをする。 ・今日の学習でできたこと、わかったこと →どうしたらできた、わかったのか できなかったこと、わからなかったこと →なぜできなかったのか、次回どうするか	○うまくいかなかったと思った児童がいてもよいことを伝え、その際は、どうしたらよかったのかを分析するよう伝える。
-----	--	--